

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-264600

(43)公開日 平成6年(1994)9月20日

(51)Int.Cl.⁵
E 04 F 15/02

識別記号 廈内整理番号
N 7805-2E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全3頁)

(21)出願番号 特願平5-55817

(22)出願日 平成5年(1993)3月16日

(71)出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72)発明者 田中 修一

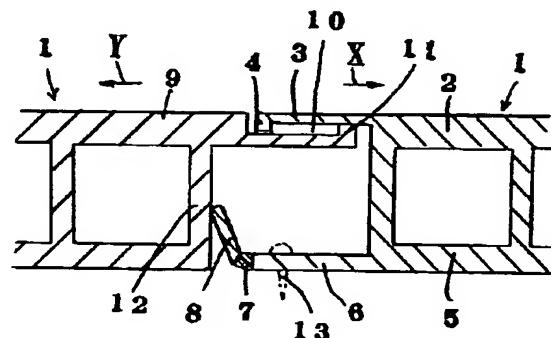
滋賀県彦根市古沢町44-1

(54)【発明の名称】 並設用板体

(57)【要約】

【目的】 連絡した部分より流入した雨水の漏れを防止し、裏面からの見栄えもよい並設用板体を提供する。

【構成】 長手方向に沿う一方の側端部の表板2から延設された被板3が側方に突出され、上記被板3の幅方向に位置調整自在に載置される四段部9他方の側端部に形設された並設用板体において、上記被板3が側方に突出された側端部側の裏板5から底板6が延設され、この延設された底板6の先端部8が曲折自在とされ、且つ、この先端部8が隣接する板体1の脚板12に並設時に密接するようになされている。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 長手方向に沿う一方の側端部の表板から延設された被板が側方に突出され、上記被板を幅方向に位置調整自在に載置する凹段部が他方の側端部に形設された並設用板体において、上記被板が側方に突出された側端部側の裏板から底板が延設され、この延設された底板の先端部が曲折自在とされ、且つ、この先端部が隣接する板体の脚板に並設時に密接するようになされていることを特徴とする並設用板体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、多数の板体が並設されて床状とされる並設用板体に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、多数の板体を並設して床状とする並設用板体において、隣接する板体間に隙間が生じないように、その隙間を遮蔽可能とし、施工場所の広さ等に応じて隣接板体間の距離を調節可能とした板体は、例えば、実公平2-8988号公報等によって既に知られている。

【0003】 この実公平2-8988号公報に開示されている板体は、図3に示すように、板体40の一方の側端部の表板41から延設して被板42を側方に突出させ、他方の側端部の表板43に、隣接する板体40の被板42が幅方向に位置調節自在に載置される凹段部44を形設し、この側端部側の脚板45の下端から凹段部44外端よりさらに外側方に達する底板46を延設して、この底板46の外端に立上がり板47を突設し、この立上がり板47の内側及び脚板45に係合する抑止板48を被板42から垂下し、施工上の自由度の制限を無くし、隣接板体40、40間の距離を簡単且つ容易に調整して連結設置可能としたものである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、上記の板体40は、施工上の自由度の制限を無くし、隣接板体40、40間の距離を簡単且つ容易に調整して連結設置可能とし、又、連結する板体40、40の表面の連結部分を面一にする効果はあるが、成形時の精度、経年劣化等による連結部分の隙間からの雨水の流入による雨水漏れを完全に防止することができず、又、底板46と裏板39間があいて裏側から見た場合見苦しいという問題があった。

【0005】 本発明は、上記問題点に鑑みされたもので、連結した部分より流入した雨水の漏れを防止し、裏面からの見栄えもよい並設用板体を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明の並設用板体は、長手方向に沿う一方の側端部の表板から延設された被板が側方に突出され、上記被板を幅方向に位置調整自在に

2

載置する凹段部が他方の側端部に形設された並設用板体において、上記被板が側方に突出された側端部側の裏板から底板が延設され、この延設された底板の先端部が曲折自在とされ、且つ、この先端部が隣接する板体の脚板に並設時に密接するようになされていることを特徴とするものである。

【0007】 本発明の並設用板体において、延設された底板の先端部を軟質材で構成することもできる。軟質材とすれば雨水漏れと踏み荷重による音鳴りとをよりよく防止することができる。

【0008】

【作用】 本発明の並設用板体においては、長手方向に沿う一方の側端部の表板から延設された被板が側方に突出され、上記被板を幅方向に位置調整自在に載置する凹段部が他方の側端部に形設された並設用板体において、上記被板が側方に突出された側端部側の裏板から底板が延設され、この延設された底板の先端部が曲折自在とされ、且つ、この先端部が隣接する板体の脚板に並設時に密接するようになされているので、並設用板体の連結部分より流入した雨水の漏れが完全に防止され、又、裏面側に空隙が生じないので、裏面側からの見栄えも改善される。

【0009】

【実施例】 本発明の並設用板体の実施例を図を参照して説明する。図1は本発明並設用板体の一例の施工態様を示した断面図である。図1において、1は並設用板体、2は並設用板体1の一方の側端部の表板、3は表板2から延設され、側方に突出された被板、4は被板3の先端縁部に設けられた突起、5は被板3が側方に突出された側端部側の裏板、6は裏板5から延設され、軟質材7を介して先端部8が曲折自在とされた底板である。9は並設用板体1の他方の側端部の表板、10は表板9から延設され、隣接板体1、1間の距離を調節可能なように設けられた凹段部、11は凹段部10の先端縁部に設けられた突起、12は凹段部10が形設された側端部側の脚板である。脚板12には底板6の先端部8が接している。13は並設用板体1の固定用ビスである。

【0010】 上記のように構成されているので、隣接する並設用板体1、1が矢印X方向又は矢印Y方向に位置調整された場合でも、常に底板6の先端部8が脚板12に接して並設用板体1、1間がシールされており、連結部分から流入する雨水の漏れが完全に防止される。又、隣接する並設用板体1、1の裏面側に空隙が生じないので、裏面側からの見栄えが良くなる。

【0011】 図2は本発明並設用板体の他の例の施工態様を示した断面図である。図2において、21は並設用板体、22は並設用板体21の一方の側端部の表板、23は表板22から延設され、側方に突出された被板、24は被板23の先端縁部から垂下された脚板、25は被板23が側方に突出された側端部側の裏板、26は裏板

3

25から延設され、軟質材27を介して先端部28が曲折自在とされた底板であり、底板26には立上がり板29が設けられている。30は並設用板体21の他方の側端部の表板、31は表板30から延設され、隣接板体21、22間の距離を調節可能なように設けられた凹段部、32は凹段部31の先端縁部に設けられた突起、33は凹段部31が形設された側端部側の脚板である。脚板33には底板26の先端部28が接している。34は並設用板体21の固定用ビスである。

【0012】図2に示した並設用板体21の場合でも、図1に示した並設用板体1の場合と同様、常に底板26の先端部28が脚板33に接して並設用板体21、22間がシールされており、連結部分から流入する雨水の漏れが完全に防止される。又、隣接する並設用板体21、22の裏面側に空隙が生じないので、裏面側からの見栄えが良くなる。

【0013】

【発明の効果】本発明の並設用板体においては、長手方向に沿う一方の側端部の表板から延設された被板が側方に突出され、上記被板を幅方向に位置調整自在に載置する凹段部が他方の側端部に形設された並設用板体において、上記被板が側方に突出された側端部側の裏板から底

4

板が延設され、この延設された底板の先端部が曲折自在とされ、且つ、この先端部が隣接する板体の脚板に並設時に密接するようになされているので、並設用板体の連結部分より流入した雨水の漏れを完全に防止することができ、又、裏面側に空隙が生じないので、裏面側からの見栄えも良くすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の並設用板体の一例の施工態様を示した断面図。

10 【図2】本発明の並設用板体の他の例の施工態様を示した断面図。

【図3】従来の並設用板体の施工態様を示した断面図。

【符号の説明】

1、21 並設用板体

2、9、22、30 表板

3、23 被板

4、10、32 突起

5、25 裏板

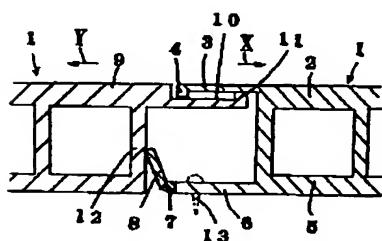
6、26 底板

20 10、31 凹段部

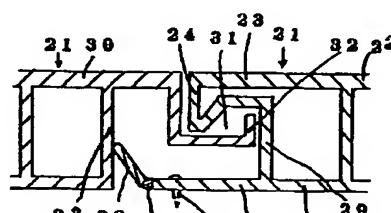
12、24、33 脚板

29 立上がり板

【図1】



【図2】



【図3】

